

丹後農業実践型学舎研修情報（5月）

（研修概要）

【5期生】

○ほ場の耕耘、肥料散布、かん水等を通じて各種機械の使用方法を習得した。

○甘藷、九条ねぎ、かぼちゃ等各種野菜の栽培管理をした。



肥料散布



栽培履歴作成等に係る説明



甘藷栽培ほ場マルチング



九条ねぎ定植実演



九条ねぎ育苗



甘藷挿苗

研修を通じての学舎生の所感（抜粋）

動噴での農薬散布は、均一になるようにトラクターの速度を自分で調整しなければならなかったと感じた。また農薬の使用では、種類、希釈をしっかりと確認し、周囲の圃場に飛び散らないように注意しなければならない。

溝を切る際に真っ直ぐに切れないため、目標物を見定め真っ直ぐに切れるように練習しなければならない。

平起こしでは以前よりだいぶ真っ直ぐに走れるようになったと思う。しかし、培土板を使った時は曲がってしまいうまくできなかった。

除草剤を散布する時に量の加減が難しく、ノズルの先端が地面に当たって扱いが難しく、練習が必要だと感じた。

九条ねぎの定植の機械は半自動式と全自動式でした。どちらも長所と短所があるが1人でするなら全自動式がよさそうです。

甘藷等の苗を定植する際は、気温が上昇しているので、しなびないように素早い作業を行わなければならない。

マルチやブロードキャスターを使用しての実習は初めてで難しく考えていましたが、自分で出来る自信を持ってました。1人でするのが難しい作業もありますが工夫して1人で出来るように考えていきたい。

直売所等を見学して、この時期は野菜があまり出回っていないので、そこを狙い出荷することも1つの手であると感じた。